

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104811
法人名	有限会社ライフサポートさくら草
事業所名	グループホーム軽井沢
所在地	愛媛県松山市南斎院町乙19番地5
自己評価作成日	平成23年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員と利用者が共に支えあい家族のような関係を築いていけるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣の人たちと親しく挨拶を交わり、災害訓練にも参加協力を得ている。保育園児が登園の際には明るく手を振り、声かけをしている。小学生から年賀状が届き、中学生の職場体験も受け入れている。2週間に1回は協力医の往診があり、必要に応じて胸部X線や血液検査を受けている。他の専門医とも連携を取り合い、協力関係を取っている。家族には毎月、ホーム便りを届けて生活の様子を伝え、要望を聞き取るよう努めている。散歩に出かけたり、馴染みの公園などにも出かけて楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム軽井沢
(ユニット名)	ぽんかん
記入者(管理者)	
氏名	山脇利美
評価完了日	H23年 1月 15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 玄関内に事業所の理念を掲示しており『一人一人に寄り添う』という理念に職員一同日々努めている。</p> <p>(外部評価) 理念の中心に「一人ひとりの人権を尊重し、安心した生活が送れるようサービスに努める」を掲げ、重要事項説明書に明示し、また玄関に掲示して啓発活動にもつなげるよう心がけている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近隣の保育園児が散歩時に立ち寄ったり事業所主催で、夏祭りを行い、地域の方たちと交流を図っている。</p> <p>(外部評価) 自治会に入会し、ゴミ置き場の清掃担当を引き受け、地域の人たちと挨拶を交わしている。また事業所の夏祭りには地域の人に参加を呼びかけている。近くの保育園児が登園時には手を振って声かけをしてくれる。小学生からは年賀状が届き、また中学生の職場体験を受け入れている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 事業所として地域貢献は課題でありこれから積み上げていけるよう努めていきたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に開催しており、利用者の家族にも参加してもらえるよう声掛けに努めている。利用者の様子、事業所の取り組みについて意見を出し合いサービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 市担当者、地域住民、家族などの出席を得て2か月に1回開催している。ホームから防災訓練の様子や近況報告を行い、またターミナルケアの説明などを行っている。地域住民からの要望や質問を聴き取り、丁寧に対応している。	会議録についてはどのような意見が出たか等、後で振り返った時に分かりやすい記録方法の工夫を望みたい。また、自己評価や外部評価の結果を報告するなど、多彩な議題を考案し出席者から助言や情報を得るような取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加して頂き、ホームの様子を報告したりアドバイスを頂いたりしている。利用者の状況や状態に変化があった時には報告したり相談をしている。	
			(外部評価) 市担当者とは運営推進会議で必要な情報交換を行っている。会議以外でも生活保護受給者に関する情報を共有し合っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 不定期ではあるが、身体拘束について管理者・職員で話し合い拘束しないケアに努めている。	
			(外部評価) 職員は身体拘束の対象となる行動や言動を正しく理解している。昼間は玄関には施錠しないで、職員が一人ひとりを見守り、自由でのびやかな暮らしが送れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 不定期ではあるが、虐待について管理者・職員で話し合い防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 今現在必要としている人はいないが、これから権利擁護について勉強会を行いたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分に説明し、理解して頂いていると思っている。不安や疑問点についてはいつでも訪ねて下さいと伝えている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の来所時には家族とのコミュニケーションを行い、要望を聞きだす努力をしている。要望があった場合は職員間で周知しケアの向上に努めている。	
			(外部評価) 利用者には普段の生活の中で適切な声かけに努めながら、思いや要望を聴き取っている。家族には「ホーム便り」を毎月届け、生活の様子を伝え、家族から希望を聞き取るよう努めている。相談窓口を事業所内と第三者機関に設けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎朝職員会議を行っており、意見や提案を聞き反映させている。 (外部評価) 管理者は毎朝のミーティング時に、職員から気づきや要望を聴き取り代表者に伝えている。また代表者が出席する機会もあり、対応策を伝えてくれる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 出来る限り努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人外の研修には出来る限り参加できるようにしているが、十分ではないかもしれない。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 出来ていない。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に本人、家族と話し合い今までの状況、既往歴、不安、希望、要望を聞き取り受け止める努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族との面談等を通じ家族等の声に耳を傾け、家族の体験や思いを理解し、その家族自身をも受け止めるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事業所として何とかしたいという意識が強く他のサービスの利用の調整が、遅れることもあったが『事業所だけで抱え込まない』という意識付けが出来上がっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の傍に寄り添い人として『共に過ごし、学び、支えあう』の関係を築けるよう職員同士が確認しあいながら本人と時間をかけて関わっていきけるシステム作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) グループホーム通信や職員と家族の間での手紙や電話を通して家族と、職員が共に支えていける関係を築くとともに本人と家族の距離が離れないよう心掛けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人がこれまで培ってきた人間関係や社会との関係は把握できているが、知人・友人や商店・行きつけの場所までは、個々の距離差があり積極的な支援をなっていない場面もみられる。 (外部評価) パン屋や美容師が定期的に来訪してくれたり、ボランティアなどの慰問もあり楽しい一時を過ごしている。天気の良い日には馴染みの場所を散歩したり、公園などへ出かけている。	職員の異動は利用者や家族にとっては大きな関心事であるため「ホーム便り」を活用する等、異動の状況や新しい職員の紹介など情報を提供することが望まれる。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者間のぶつかり合いも時には、見受けられるが、支えあって暮らすことの大切さを職員が理解し、利用者が孤立せず、共に暮らしを楽しめる支援を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了した後も、関係者に対して本人の状況、習慣、好み等、これまでのケアの情報を伝えている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者一人ひとりの思いや希望、意向等の把握は困難で不確かな事が多いが、職員全員が一人ひとりの思いや意向について関心をはらい、なんとかして把握しようとしている。	
			(外部評価) 利用者とは常に顔を合わせながら、要望や思いを聴き取るよう努めている。会話の困難な利用者は、表情や態度から何を思い、何を望んでいるか、把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) プライバシーに配慮しながら、職員一人ひとりが、本人や家族と面会時や手紙電話を通じ、馴染みになれるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人の目では、見落とす事も多いので、職員全員がチームとして、一人ひとりの暮らしの流れに沿って、把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画を作成する際、本人、家族及びスタッフの意見を取り入れ現状を把握したうえで、計画ができています。	
			(外部評価) 毎朝のミーティング時の話し合いや健康状態のチェック表などを参考に、管理者が介護計画の案を作成し、職員が検討を加えた上で、利用者や家族に説明し同意を得ている。定期的に見直しも行っているが、変化があった場合は柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 申し送りをして情報交換、及び伝達が出来ており、その日、その日の状態が観察できている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その時々々のニーズとしてお墓参りや宗教活動等に、参加できるように支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの人たちと関わりを持つ機会をつくっている。散歩やごみ出し時に近所の人と挨拶やおしゃべりを楽しめている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人家族と相談の上、かかりつけ医を決めている。 (外部評価) 2週間に1回は協力医の往診があり、協力医とは24 時間体制で連携を取っている。眼科、歯科、皮膚科な どの専門医には、協力医や家族と相談して受診してい る。胸部X線、血液検査なども協力医の判断で検査を 受けるなど、健康管理は十分行われている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者の体調に変化があったときなど、事業所内の看 護師や訪問看護師に相談を行っている。また、アドバ イスされたことを介護にいかしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時にはお見舞いに行き、入院中の様子の把握に努 めている。利用者との関わりも継続し早期退院に向け て相談や指導を受けている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入院時に利用者及び、ご家族に対し終末期に対しての 意向を話し合っており、状態に変化があった時も再度 話し合いの場を設けている。 (外部評価) ターミナルケアに関しては、入居前に事業所の方針を 伝え、家族の希望も十分聴き取り同意書に承諾・捺印 を得ている。過去にターミナルケアの経験もあり、全 職員が協力し支援することができている。	理解しやすいマニュアルを作成し、定期的に学習を行 うことが望まれる。また、過去の事例を分析し活用す る等、今後のケアがさらにより良いものになるよう創 意工夫を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急連絡網や通報マニュアルを作成し定期的に訓練を行っているが、すべての職員が実践力を身につけているとは言えない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 訓練を行い地域との協力体制は、築いてはいるが全職員が身につけているという点では、不十分である。 (外部評価) 年2回のうち、1回は夜間想定避難訓練を、消防署の指導を得て実施している。訓練には地域住民の参加協力を得ている。事業所の関係者が地域の自主防災組織のメンバーであり、近隣に協力依頼を行っている。	分かりやすいマニュアルを作成し、ホームの要所に備えておくことが求められる。緊急連絡網を使用して、連絡の訓練を定期的に行っておくことも大切である。ホームの要所に懐中電灯を備え、また地震対策として家具類を固定しておくことが求められる。訓練の記録を管理し、次回の訓練に活かすことも大切である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を把握し、プライバシーを配慮しながら声掛けや対応を行っている。 (外部評価) 利用者一人ひとりを尊重し、プライドを傷つけないよう、心をこめてケアに当たっている。個人情報の取り扱いに関しては、十分配慮している。ホーム便りに顔写真を掲載することに関しては、家族に承認を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々利用者と接することにより、思いや希望をキャッチできるよう働きかけている。利用者が言葉では十分に意思表示が出来ない場合であっても、表情や全身での反応をみて把握できるよう働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの動きや状態に合わせて職員が見守りその日の過ごし方を柔軟に考え、支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの個性や希望を第一に考え、定期的に理美容院など利用し日々身だしなみやおしゃれに気をつけるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 日ごろから利用者と食事の準備や後片付けを行い、食事を楽しむことのできるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者の機能に応じて、料理や下膳の手伝いをお願いしている。個人の好みの食器を使用している。嚥下機能の低下した利用者の傍らでは、ゆったりと優しく食事介助を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 配食サービスを利用することにより、栄養バランスやカロリー摂取はバランス良く出来ている。体調や体重の増減により水分補給や食事の量など、記録に残し一人ひとりの状態に応じた支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの口腔状態や本人の習慣・力を生かしながら口腔内の清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを観察しながらトイレ誘導を行い出来る限りトイレで排泄できる環境を作っている。	
			(外部評価) 利用者各自の排泄パターンを把握しており、さりげなく声かけをしながら介助を行っている。可能な限りおむつの使用を減らして、トイレでの排泄支援に努めている。便秘がちな利用者には、食事面で工夫をし、水分補給に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘によるストレスを軽減できるよう水分摂取や運動の働き掛けをしたり、飲食物の工夫もしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴日を決めてしまっているが、出来る限り希望にこたえられるように努めている。	
			(外部評価) 最低3日に1回は入浴支援を行っている。脱衣所は適温に保っている。羞恥心や恐怖心をそそらないよう、利用者の心情を十分配慮しながら、ゆったりと支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者の体調や睡眠状況によって休息できる時間を確保できている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの介護記録に処方箋をつけて理解している。また薬が変更になった時等は、毎朝の申し送り（ノートにも記入）にて把握するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者が頼りにされている場面作りを提供できるようにしている。（食事の準備・掃除等） 歩行困難な利用者は車椅子にて近所を散歩したり、日光浴等気分転換をしてもらえるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者全員の希望には応えてないところもあるが、天気の良い日などはドライブや買い物に出かけている。家族や地域の人たちと出掛けることは行なえていない。	
			(外部評価) 天気の良い日にはホーム周辺を散歩している。また車を使用して神社に初詣にでかけたり、公園やコスモス畑、総合公園、道の駅などへ出かけて楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理が可能な方に関しては本人が所持し買い物先や外出先で自分で支払いが出来るよう支援出来ている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があればいつでも電話をしてもらえるようにしている。利用者の中には文通している人もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 時間帯によってカーテンで遮光したり、温度計や利用者の声を聞きながら室内の温度調節を行っており、壁面には季節に応じた飾りつけを行っている。</p> <p>(外部評価) 自然環境に恵まれ、共用広間から総合公園が見渡せる。居間には見やすい時計や、文字の大きいカレンダーと日めくりを備え、時の見当識に役立つよう配慮している。壁には季節の飾り付けや、行事などの写真が貼られ、心和む環境づくりがされている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングから少し離れた所にソファを置き定席で過ごしたり、ソファで過ごしたりと一人ひとりの自由に過ごしてもらえるようにしている。食卓の座席の配置には気を配るようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 今まで使いなれたものを使用し、新しいものを購入するときは一緒に行っている。仏壇を持ち込みされている方もいる。</p> <p>(外部評価) 居室の入り口には、大きい文字で氏名が掲げられ、また職員の描いた利用者の似顔絵が貼ってあり、各人の大切な部屋であることが感じ取れる。室内は自分の部屋らしく工夫し、居心地のよい部屋づくりがされている。仏壇を置いている部屋もある。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 廊下、トイレ、浴室には手すりがあり利用者が安全に生活出来るよう工夫している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104811
法人名	有限会社ライフサポートさくら草
事業所名	グループホーム軽井沢
所在地	愛媛県松山市南斎院町乙19番地5
自己評価作成日	平成23年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの気持ち、ペースを大切に、それぞれの希望、やりたい事が出来る楽しみや幸せを感じられる時間が少しでも増やせるような支援をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣の人たちと親しく挨拶を交わし、災害訓練にも参加協力を得ている。保育園児が登園の際には明るく手を振り、声かけをしている。小学生から年賀状が届き、中学生の職場体験も受け入れている。2週間に1回は協力医の往診があり、必要に応じて胸部X線や血液検査を受けている。他の専門医とも連携を取り合い、協力関係を取っている。家族には毎月、ホーム便りを届けて生活の様子を伝え、要望を聞き取るよう努めている。散歩に出かけたり、馴染みの公園などにも出かけて楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム軽井沢

(ユニット名) さくらんぼ

記入者(管理者)
氏名 山脇利美

評価完了日 H23年 1月18日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所としての介護理念を、職員の目につく場所（玄関）に掲示している。定期的に介護理念について研修会を行い、意識の向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 理念の中心に「一人ひとりの人権を尊重し、安心した生活が送れるようサービスに努める」を掲げ、重要事項説明書に明示し、また玄関に掲示して啓発活動にもつなげるよう心がけている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近所のごみステーションの清掃を順番で行っている。利用者と近所を散歩した時は、機会があれば近所の方と利用者も交え、談話するようにしている。</p> <p>(外部評価) 自治会に入会し、ゴミ置き場の清掃担当を引き受け、地域の人たちと挨拶を交わしている。また事業所の夏祭りには地域の人に参加を呼びかけている。近くの保育園児が登園時には手を振って声かけをしてくれる。小学生からは年賀状が届き、また中学生の職場体験を受け入れている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) ホームに相談に来られたり、電話をかけてこられた時などは対応しているが、積極的には行なっていない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に開催しており、利用者の家族にも参加してもらえるよう声掛けに努めている。利用者の様子、事業所の取り組みについて意見を出し合いサービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 市担当者、地域住民、家族などの出席を得て2か月に1回開催している。ホームから防災訓練の様子や近況報告を行い、またターミナルケアの説明などを行っている。地域住民からの要望や質問を聴き取り、丁寧に対応している。	会議録についてはどのような意見が出たか等、後で振り返った時に分かりやすい記録方法の工夫を望みたい。また、自己評価や外部評価の結果を報告するなど、多彩な議題を考案し出席者から助言や情報を得るような取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加して頂き、ホームの様子を報告したりアドバイスを頂いたりしている。利用者の状況や状態に変化があった時には報告したり相談をしている。	
			(外部評価) 市担当者とは運営推進会議で必要な情報交換を行っている。会議以外でも生活保護受給者に関する情報を共有し合っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会や研修などでホームでの現状と照らし合わせながら、職員間で意見を出し合い、日ごろのケアに活かせるよう努めている。	
			(外部評価) 職員は身体拘束の対象となる行動や言動を正しく理解している。昼間は玄関には施錠しないで、職員が一人ひとりを見守り、自由でのびやかな暮らしが送れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会や研修などでホームでの現状や事例等と照らし合わせながら、職員間で意見を出し合い、日ごろのケアに活かせるよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部の研修などに参加した職員は、理解出来ている。が、ホーム内での研修や勉強会には至っておらず、職員全員での理解、活用までは出来てない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分に説明し、理解して頂いていると思っている。不安や疑問点についてはいつでも訪ねて下さいと伝えている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議において家族とのコミュニケーションを行い、要望を聞きだす努力をしている。要望があった場合は職員間で周知しケアの向上に努めている。	
			(外部評価) 利用者には普段の生活の中で適切な声かけに努めながら、思いや要望を聴き取っている。家族には「ホーム便り」を毎月届け、生活の様子を伝え、家族から希望を聞き取るよう努めている。相談窓口を事業所内と第三者機関に設けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎朝ユニットごとにミーティングを行っています。意見交換の場としても活用されており、職員一人ひとりが考えている事を発言する機会を作っています。必要に応じ、管理者から代表者へ伝え、意見の反映につなげている。 (外部評価) 管理者は毎朝のミーティング時に、職員から気づきや要望を聴き取り代表者に伝えている。また代表者が出席する機会もあり、対応策を伝えてくれる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 出来る限り努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月、研修に関するパンフレットを読む機会があり、参加希望がある場合はその日時に合わせ、シフトを考慮している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 特に行なえていません。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前にアセスメントを行っています。本人、家族と話し合いを行い、そこで得た情報を職員間で共有し、初期の信頼関係作りに活かしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用開始時に、家族へ介護に対する意向や、気持ちを伺い、支援の方向性を決めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 個別の状況や状態に応じて必要だと思われるサービスの情報提供や支援の方法で対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の出来る事出来ない事を見極め、出来ることは積極的に行って頂き、出来ないことをさりげなく支援させて頂いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の協力も得ながら支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の方から希望がある時は電話連絡できるよう支援したり、手紙のやりとりなど、楽しんで頂いている。 (外部評価) パン屋や美容師が定期的に来訪してくれたり、ボランティアなどの慰問もあり楽しい一時を過ごしている。天気の良い日には馴染みの場所を散歩したり、公園などへ出かけている。	職員の異動は利用者や家族にとっては大きな関心事であるため「ホーム便り」を活用する等、異動の状況や新しい職員の紹介など情報を提供することが望まれる。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 気の合う利用者同士でお話出来るよう会話の橋渡しをしています。日ごろからゲームをして頂いたり、ホームの行事への参加を促したり、利用者同士が声を掛け合える環境作りに努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 在宅へ帰られた利用者到手紙を出したりしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 定期的に本人、家族と今後の意向について話し合いを行っています。 (外部評価) 利用者とは常に顔を合わせながら、要望や思いを聴き取るよう努めている。会話の困難な利用者は、表情や態度から何を思い、何を望んでいるか、把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 看護サマリーやアセスメント等の資料をもとに、生活歴や馴染みの暮らし方などこれまでのサービスの利用の経過等が把握できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の申し送りを確実にこなすと共に様子観察をし、変化があれば職員全員で情報を共有し、利用者の方の健康管理と安全に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族の意見を聞き職員間で話し合いを行い、その意向を反映出来る介護計画を作成できるよう努めている。	
			(外部評価) 毎朝のミーティング時の話し合いや健康状態のチェック表などを参考に、管理者が介護計画の案を作成し、職員が検討を加えた上で、利用者や家族に説明し同意を得ている。定期的に見直しも行っているが、変化があった場合は柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子を介護記録に残し、問題点や課題を職員間で相談しながら介護に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その時々々のニーズに合わせたサービスが提供できるよう支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のスーパーや理容店、公園等に出掛けている。地域ボランティアを活用し外出支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人や家族が希望するかかりつけ医で医療が受けれる よう支援している。通院は、家族と協力しながら支援 している。 (外部評価) 2週間に1回は協力医の往診があり、協力医とは24 時間体制で連携を取っている。眼科、歯科、皮膚科な どの専門医には、協力医や家族と相談して受診してい る。胸部X線、血液検査なども協力医の判断で検査を 受けるなど、健康管理は十分行われている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 体調に変化が見られた際には、医師や看護師に報告し 適切な医療が受けられるよう看護師と協力を行ってい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 情報交換を行い退院後に備え話し合いを行っている。 退院後のケアについても話し合い準備を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナルケアについて本人、家族と話し合いを行 い、ホームの指針を伝え本人、家族の希望を取り入れ ターミナルケアに取り組んでいる。 (外部評価) ターミナルケアに関しては、入居前に事業所の方針を 伝え、家族の希望も十分聴き取り同意書に承諾・捺印 を得ている。過去にターミナルケアの経験もあり、全 職員が協力し支援することができている。	理解しやすいマニュアルを作成し、定期的に学習を行 うことが望まれる。また、過去の事例を分析し活用す る等、今後のケアがさらにより良いものになるよう創 意工夫を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルを作成し、職員で訓練を行っている。応急手当での訓練は定期的には行なっていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を定期的に行ってはいるが、職員全員が身につけているとは言えない。災害時に備え近隣の方から協力が得られるよう、お願いしている。 (外部評価) 年2回のうち、1回は夜間想定での避難訓練を、消防署の指導を得て実施している。訓練には地域住民の参加協力を得ている。事業所の関係者が地域の自主防災組織のメンバーであり、近隣に協力依頼を行っている。	分かりやすいマニュアルを作成し、ホームの要所に備えておくことが求められる。緊急連絡網を使用して、連絡の訓練を定期的に行っておくことも大切である。ホームの要所に懐中電灯を備え、また地震対策として家具類を固定しておくことが求められる。訓練の記録を管理し、次の訓練に活かすことも大切である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個々の人格を尊重し、その方にあった声掛けや対応を行っている。 (外部評価) 利用者一人ひとりを尊重し、プライドを傷つけないよう、心をこめてケアに当たっている。個人情報の取り扱いに関しては、十分配慮している。ホーム便りに顔写真を掲載することに関しては、家族に承認を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入浴日、買い物等日常生活の中で利用者が選択できる状況を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員側の都合を優先する事もあるが、概ね希望に沿って支援出来ている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 季節に合わせたおしゃれが出来るよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 配食サービスを利用しており、行事ごとの変わりメニュー・季節に合わせたメニューを提供している。無理強いにならないように片付けや調理に参加して頂けている。	
			(外部評価) 利用者の機能に応じて、料理や下膳の手伝いをお願いしている。個人の好みの食器を使用している。嚥下機能の低下した利用者の傍らでは、ゆったりと優しく食事介助を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 十分な水分量が摂れるよう支援し、夏場は特に気をつけ声掛けを行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自立している方には声掛けを行い、介助が必要な方には毎食後歯磨き、うがいの介助を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを把握しトイレへ誘導し、トイレでの排泄を支援している。	
			(外部評価) 利用者各自の排泄パターンを把握しており、さりげなく声かけをしながら介助を行っている。可能な限りおむつの使用を減らして、トイレでの排泄支援に努めている。便秘がちな利用者には、食事面で工夫をし、水分補給に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 朝食時に牛乳を摂取したり、水分を多く採って頂いたり自然排便を促している。排便がない場合は、個々の排便パターンを把握し適切に下剤を利用している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ある程度の入浴日程は決まっているが、その日の利用者の気分や体調に合わせて行なっている。本人の希望がある場合はそれに応じている。	
			(外部評価) 最低3日に1回は入浴支援を行っている。脱衣所は適温に保っている。羞恥心や恐怖心をそそらないよう、利用者の心情を十分配慮しながら、ゆったりと支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 居室で安心して過ごせる空間になるよう支援し安眠、休息がしやすい静かな環境になるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋を各利用者ごとにファイルし、変更があった場合は職員全員が内容を把握できるよう申し送りをしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者から希望がある場合は好きなものを購入、飲食してもらっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買い物・ドライブ・近所への散歩など出来る限り希望に応じた対応を行っている。日用品の買い物などには、随時対応している。	
			(外部評価) 天気の良い日にはホーム周辺を散歩している。また車を使用して神社に初詣にでかけたり、公園やコスモス畑、総合公園、道の駅などへ出かけて楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 事業所でお金の管理をしているが、買い物の希望がある場合職員と一緒に出掛け、対応している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があれば支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 光が強すぎないように、すだれやカーテン等をしている。玄関やリビングに季節の花を活けたり行事の時に写した写真を掲示したりしている。</p> <p>(外部評価) 自然環境に恵まれ、共用広間から総合公園が見渡せる。居間には見やすい時計や、文字の大きいカレンダーと日めくりを備え、時の見当識に役立つよう配慮している。壁には季節の飾り付けや、行事などの写真が貼られ、心和む環境づくりがされている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) お一人おひとりがその日の気分や時間によって好きな場所で過ごせるような環境が作れている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入所時に使い慣れたものや気に入ったものを持ち込まれており居室に家族との写真を飾られている。</p> <p>(外部評価) 居室の入り口には、大きい文字で氏名が掲げられ、また職員の描いた利用者の似顔絵が貼ってあり、各人の大切な部屋であることが感じ取れる。室内は自分の部屋らしく工夫し、居心地のよい部屋づくりがされている。仏壇を置いている部屋もある。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 廊下、トイレ、浴室に手すりがあり利用者が持っている力を発揮できる環境づくりが出来ている。</p>	